

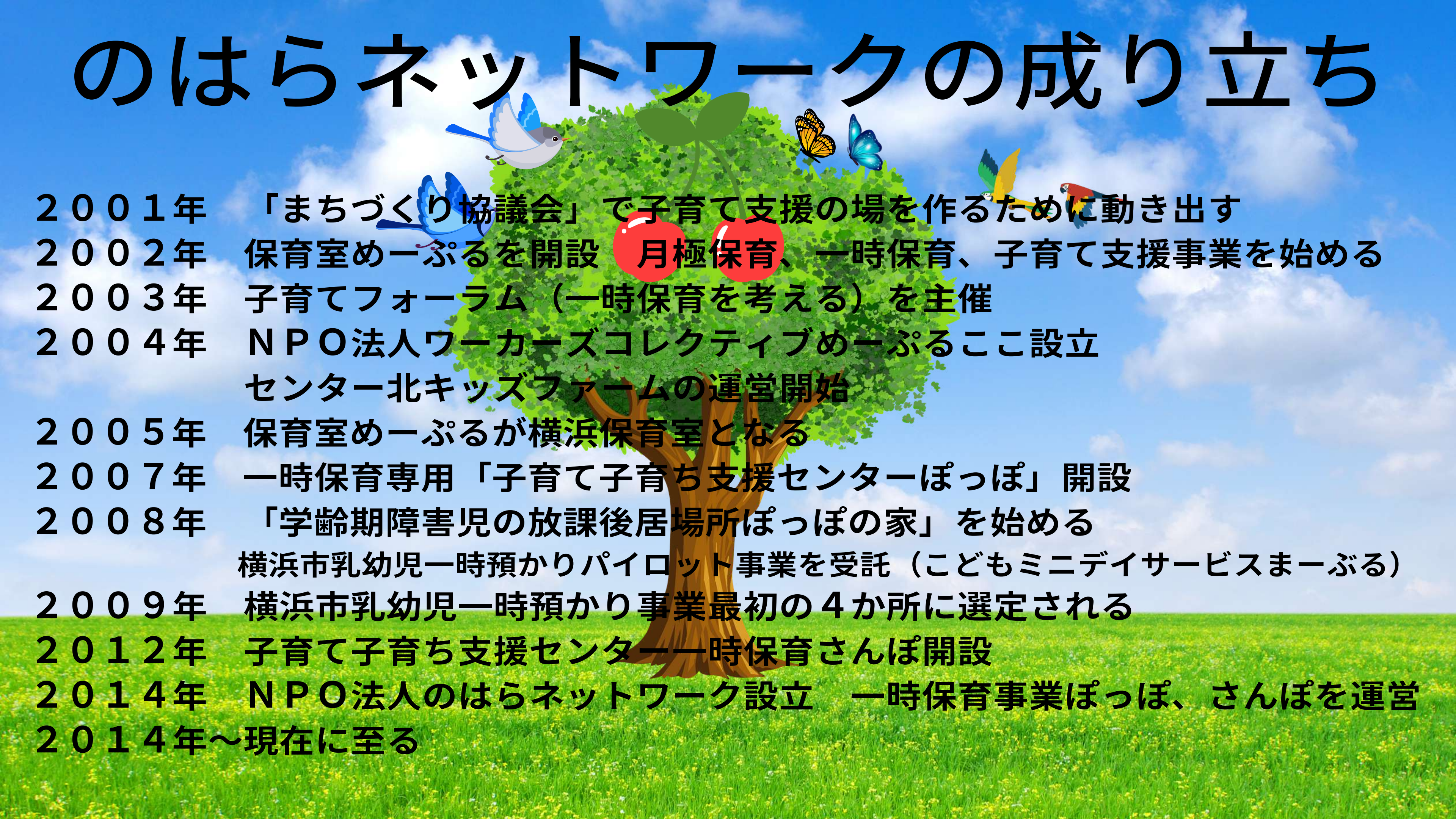
NPO法人のはらネットワーク

みんなちがって、みんないい

現場の声から作られた「手作りの子育て支援」

NPO法人のはらネットワーク
横浜市乳幼児一時預かり事業
一時保育ぽっぽ・さんぽ
宮田友紀・燕昇司知里

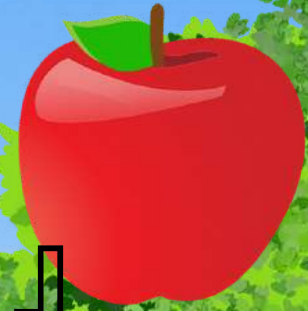
のはらネットワークの成り立ち

- 
- 2001年 「まちづくり協議会」で子育て支援の場を作るために動き出す
- 2002年 保育室めーぶるを開設 月極保育、一時保育、子育て支援事業を始める
- 2003年 子育てフォーラム（一時保育を考える）を主催
- 2004年 NPO法人ワーカーズコレクティブめーぶるここ設立
センター北キッズファームの運営開始
- 2005年 保育室めーぶるが横浜保育室となる
- 2007年 一時保育専用「子育て子育ち支援センターぽっぽ」開設
- 2008年 「学齡期障害児の放課後居場所ぽっぽの家」を始める
横浜市乳幼児一時預かりパイロット事業を受託（こどもミニデイサービスめーぶる）
- 2009年 横浜市乳幼児一時預かり事業最初の4か所に選定される
- 2012年 子育て子育ち支援センター一時保育さんぽ開設
- 2014年 NPO法人のはらネットワーク設立 一時保育事業ぽっぽ、さんぽを運営
- 2014年～現在に至る

手作りの子育て支援



『さんぽのわっ』



『さんぽの扉』



ぽっぽ さんぽ



『さんぽ父の会』



『夕暮れ赤ちゃん広場』

『かあさんぽ』



『ここぽっぽ』



キッズファーム
『畑の日』

支援の紹介



『さんぽのわ』

毎週水曜日 鴨池公園開催

のはらネットワークと一緒に親子で外遊び。虫や花を探したり、ただ山道をお散歩したり。自然の中で季節を感じながら遊びます。

利用者の声

いつ行っても、いつ帰っても大丈夫。行けば誰かに会える。遊べる。話せる。がいいです。

小さな人たちと、大人が、小さな冒険をしているみたいで、ワクワクします。

さんぽのわは、どこかの園に所属していなくても、誰かとつながって遊べたり、お弁当を食べたり、子どもがのはらで自由に遊ぶ姿が見られます。

寄り添う保育者が子どもにどんな言葉をかけるのか、他のお母さんから学ぶ事があり、親が育つ機会もいただいている気がします。

『さんぽの扉』

週1～2回開催

コロナウイルス感染流行による急事態宣言中に外に出られず、人にも会えないという状況の中、非接触型でLINEを利用し、子育ての悩みや不安などの雑談を受け付ける。

利用者の声

なかなか人と会う機会のない中、どこかの機関へ電話相談する程でもないことを気軽に相談できたので良かったです。

すぐに返事が来てよかった。悩み、愚痴も共感してもらえてスッキリした。

本当にしんどい時、アクションを起こせば言葉なりなんなり支えてもらえると思います。頼りにしています。

支援の紹介

～地域と一緒に作る子育て支援～



キッズファーム『畑の日』

毎月 第3土曜日

センター北キッズファームにてキッズファームのスタッフと
ぽっぽのスタッフと一緒に
畑仕事や泥遊びを楽しむ。親子の居場所作り。



利用者の声

泥遊びが経験できるのが嬉しいです。来月も楽しみにしています。

畑仕事を子どもと経験できて、子育ての悩みも聞いてもらえて、いつもありがとうございます。



『ここぽっぽ』

毎月 1回開催

つづきっこ読書応援団所属の「jijibaba隊」の皆さんによるお話会。
永年読み継がれている絵本や手遊び歌、わらべうたをみんなで楽しみ、
親子で絵本に親しむ機会になっている。



これまでも、これからも ～いろいろな人に寄り添う多様な子育て支援を～

